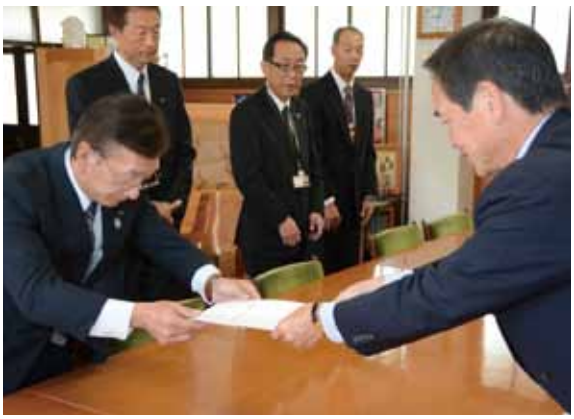
将来にわたり安定的な稲作経営を目指す

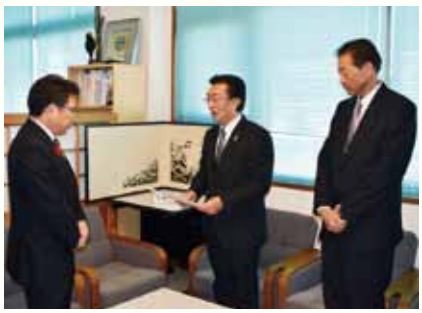
米の需給安定対策を要請



▲斉藤市長に要請書を手渡す組合長

26年産米の販売環境が厳しい状況を受け、JAは能代市、藤里町、また各議会に米の需給安定対策を要請しました。10月15日に能代市役所、28日には藤里町役場を佐藤組合長ら4名で訪れ、米価変動に対応したセーフティーネットの構築や飼料用米の環境整備などを求めた要請書を手渡しました。

組合長は「直接支払金の半減、米穀機構の財源が無くなったこの売環境は新農政の初年度から深刻。安心して稲作ができる環境を政府に働きかけてほしい」と述べ、斉藤市長からは「基幹産業の農業の発展とは最重要課題。JA運命共同体となって頑張りたい」と話しました。



▶佐々木町長へ要請文を読み上げる組合長

需要期を前に出荷規格等を確認

収穫・出荷に向け、秋冬ねぎ目揃会を開催

▲適期収穫を呼び掛ける山谷部会長

JAねぎ部会は10月15日、秋冬ねぎの収穫と出荷を目前に控え、出荷規格等を確認する目揃会を開催しました。

生産者やJA、市場関係者など約40名が参加し、はじめに山谷初男部会長が「ねぎの収穫が折り返し地点を迎え、去年を上回る実績をあげている。後半戦も他産地に負けないよう、消費者に選ばれる高品質な『白神ねぎ』の販売を目指してきたい。」と挨拶。また、各市場からの情勢報告や生育状況、病害虫防除について説明がされたほか、東京で行われたねぎ品質査定会で、『白神ねぎ』が高い評価を得て、市場での評判も上がってきていることなどが報告されました。

自然に触れながら収穫の喜びを味わう

園児の笑顔が満開になった収穫体験

▲元気いっぱいにサツマイモを収穫する園児

収穫する楽しさ、食べ物を大切にする心を育んでもらおうと、JA青年部浅内支部による『おもしれえで農業・イモ掘り大会』が10月29日に能代市河戸川の圃場で開かれ、浅内保育所と桧山保育所の園児16名が元気にサツマイモ掘りに挑戦しました。

青年部員から掘り方を教わりながら、長靴・軍手姿の園児たちは収穫作業を始めました。大きなサツマイモを掘り出すと「大きいサツマイモが取れて楽しい！」「こんなにいっぱい取れたよ」など元気な声を響かせながら、収穫の喜びを味わいました。今回収穫したサツマイモは園児たちが家に持ち帰り、家族へプレゼントされました。

牡牛座（4・20～5・20） 物事を悪い方に受け止めやすいかも。意識的にポジティブシンキングを。気分転換には寺社巡りがお勧め